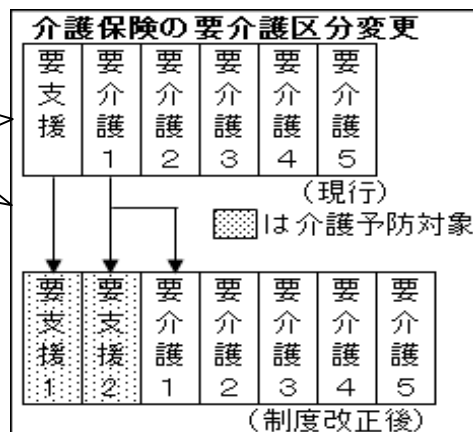
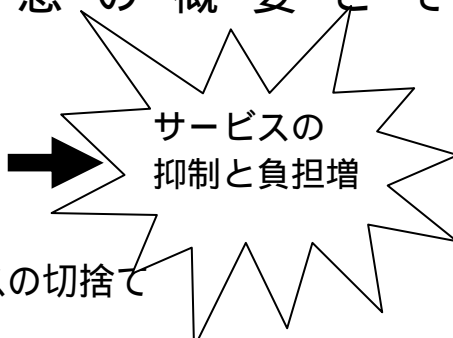


《介護保険改悪の概要とそのねらい》

政府の見直しの視点

1. 給付の効率化・重点化
2. 予防重視型システムへの変換
3. 社会保障の総合化



軽度要介護者の介護サービスの切捨て

要支援、要介護1の利用者を訪問介護（ホームヘルパー）や通所リハビリ・通所介護（デイサービス）の対象からはずされます。費用の削減を優先して、このサービスを「予防重視」を理由に制限されます。

軽度要介護者にとって、訪問介護をはじめとする居宅サービスは日常生活の安心感と生活の意欲を引き出し、在宅生活を維持・継続できる不可欠のサービスです。これを手厚くしてこそ、要介護者の重度化を抑制し、自立につながると私たちは考えており、大変な問題です。

施設入所者への居住費・食費の自己負担化と利用制限

特別養護老人ホームや介護老人保健施設（老建）の居住費・食費が自己負担となります。住民税本人非課税者は、自己負担額に上限がなく、施設との契約で料金が決まります。施設の利用制限も計画され入所は要介護2以上に制限されます。

改悪法案は、この全額を高齢者の実費負担になるとされ、施設の入所者平均で、1人当り年間40万円の負担増が強いられます。所得の低い要介護者を、施設利用から事実上締め出すこととなります。

保険料が5,000円以上に引き上げ

保険料は06年には4,300円（30%増）、09年には5,100円となる試算を発表しています。また、09年までに保険料支払い者を40歳から20歳へ引き下げる計画をしています。

社会保障の財源はほんとにないの？

・法人税減税の穴埋めに消えた消費税収

社会保障充実の目的で導入した消費税も、現在法人税の減収分に充てられており社会保障には使われていません。また、このことを隠したまま更なる消費税の引き上げなども狙っています。

・税金の使い方を見直すべき！

公共事業費はサミット6ヶ国の合計よりも多く、社会保障への公費負担額はイギリス13%、ドイツ10%に対し、日本は約5%にしか過ぎません。大切なのは税金の使い方です。

・国庫負担を1%増やせば、介護費用の6割をまかなうことができます。

【参考】5月5日静岡新聞、3月23日赤旗新聞、これでいいのか介護保険（中央社会保障推進協議会）

知っていますか？ 貼り薬 (その1)

たかが貼り薬と考え、安易に使っていませんか？

いわゆる湿布剤として患部を冷やしたり、温めたり、あるいは痛みを緩和する目的で使用経験がある方が多いと思われます。

比較的に水分を多く含んだ厚みのあるタイプのものや、薄くテープ剤といわれるものがあります。大部分の薬剤は貼った患部局所への薬効を期待するタイプのものであるため、副作用も軽微で安全度の高いものです。しかしながら、貼る枚数や部分が多くなると、飲み薬と同様に全身性の副作用が出る事があるので注意が必要です。

また、貼り薬といっても色々な種類がありますので、それぞれの特徴を知って医師、薬剤師から受けた使用法を守って下さい。

(その1)では、部分的に作用させる貼り薬について紹介します。

鎮痛・消炎など痛みを緩和する貼り薬

- ・ ハップスターID (冷シップ：ハッカ臭 1日2回貼付)
- ・ モーラス (冷シップ：無臭1日2回貼付)
- ・ モーラステープ (無臭1日1回貼付)
- ・ MS温シップ (温シップ：1日1～2回貼付)

Q 貼り薬の使い分けはどうすればいいの？

一般的に冷シップは、発熱を抑え、血管を収縮させて炎症を抑えるので急性期に使用します。一方、温シップは血行を改善し、腰痛や肩こりなど慢性化した時に使われます。貼り間違えると症状を悪化することもあります。結局はご本人で使用して気持ちいいものが良いようです。

角質(うおのめ)を剥離させる薬(スピール膏)

患部の大きさに合わせた大きさにカットすること、ずれないように固定する事が大切です(2～3日貼ったままにしておき、やわらかくなったらはがします)

口内炎(アフタ)や湿疹、皮膚炎を治療する貼り薬(トクダーム)

1日1～2回の貼りかえをします。ステロイド剤を主剤としているので、使用してはいけないう疹もあり、長期使用など自己判断で使用してはいけません。

注意ポイント!

- ・ 粘膜面、損傷部位や湿疹、発疹部位には貼ってはいけません。
- ・ 温かいタイプのものは患部の腫れがひいてから使います。また、唐辛子チンキ配合のものなどは、入浴30分前にはがさない刺激感があります。
- ・ 一日中貼りっぱなしにして、かぶれを起こすケースや広範囲に貼ってしまうケースも少なくありませんので注意しましょう。
- ・ モーラステープなどは、貼っていたところに日光があたると過敏反応が出る場合があります。一週間前に貼っていた所でも過敏反応が出る場合がありますので注意しましょう。

(その2)では、全身に効果のある貼り薬について紹介します。

